

切れ目ない支援の充実のために～学校間連携のヒント～

義務教育課特別支援教育室

支援のバトンをつなぐ～学校間連携～

「大きな音が苦手だから、静かな場所を準備してほしい。」など、特別な支援が必要な児童生徒等への支援については、進学などで環境が大きく変わるときほど、児童生徒等だけでなく進学先の学校にとっても非常に重要な情報となります。支援内容等の引継ぎがあることで、新たな学びの場での円滑なスタートや、進学先の校内支援体制の充実につながります。

支援のバトンをつなぐためにも、校種の壁を越えた学校間連携を進めていくことが大切です。

学校間連携の課題

入学や進学等で学びの場が変わる際の学校間連携が効果的に行われている場合も多くありますが、なかなかうまくいかない場合もあるようです。その理由として、次のような例が考えられます。

学校は

- どんな情報を、どのように引き継ぐか、共通理解が難しい。
- 進学先において、どんな支援が可能なのか、明確に把握できていない。

本人・保護者は

- 新しい環境になるので、先入観をもたれにくい。
- 学校間での引継ぎが、当然なされていると思っていた。

課題解決のための学校間連携のヒント

必要な情報を整理し、引き継ぐためのツール

情報を引き継ぐためには、日常的に保護者と対象児童生徒等について情報交換等を行い、どんな情報を引き継ぐ必要があるかを、整理しておくことが大切です。その整理した情報を進学先等へ伝えるために活用できるツールとして、「個別の教育支援計画」や学校が独自に作成している「引継ぎ書」、「移行支援シート」等があります。

「移行支援シート」は、必要な情報をコンパクトにまとめ、進学先等へ引き継ぎ、継続した支援が提供されることを意図して、本県で作成したものです。書式や保護者用案内資料、活用に向けたリーフレット等、県教委のWebページからダウンロード

できますので、是非活用してください。

学校間連携の取組例

学校間連携については、各学校や地域で、いろいろな機会を設定して行っています。

幼稚園・保育所等と小学校との学校間連携

- 幼保小連絡会
- 夏季休業中を利用した就学前の関係機関との情報交換会
- 就学時健康診断を活用した教育相談
- 一日体験入学（特別支援学級等も含む）
- 学校見学会 など

小学校と中学校との学校間連携

- 中学校の校区をまとまりとした小・中連携研修会での特別支援教育分科会
- 中学校の通常の学級や特別支援学級での授業体験
- 中学校の特別支援教育コーディネーターと保護者との面談 など

中学校と高等学校との学校間連携

- 地区内の中学校と高等学校の担当者が集まる中・高連絡会
- 高等学校職員による学校訪問 など



(写真：中・高連絡会の様子)

こうした学校間連携においては、情報提供を待つという消極的な姿勢ではなく、対象児童生徒等の充実した将来の生活のために、お互いの学校が積極的に情報交換を行う姿勢をもつことが大切です。この積極的な姿勢が、対象児童生徒等の切れ目ない支援の充実につながると言えます。

なお、県教委では、令和3年度にかけて、学校間連携に関して収集した取組例を整理し、広く情報発信をする予定です。